

# 音楽療法事業

## 『低出生体重児に対する音楽療法セミナー』

NPO 法人 生涯発達ケアセンター さんれんぷ  
〒372-0034 群馬県伊勢崎市茂呂町二丁目 2875 番地 4

### 助成事業の概要

**実施目的：**日本ではまだ認知の低い、低出生体重児に対する音楽療法の周知を図り、概要を学ぶと共に、知識を習得する。また、低出生体重児及びその保護者のストレスの緩和、児の成長促進のため、音楽療法を取り入れる手順を具体的に学び、検討していく。

**内容：**『低出生体重児に対する音楽療法セミナー』の開催

**期日：**平成 27 年 11 月 14 日（土）

10:00 受付開始、10:30 開演、15:00 終了

**場所：**ピエント高崎 本館 301 号室（高崎市問屋町 2-7）

**講師：**呉 東進先生

（京都大学大学院医学研究科 教授  
エコチル京都ユニットセンター）

**対象：**医療関係者（医師・看護師 等）・日本音楽療法学会認定音楽療法士  
関連分野の学校に在学の学生

### 事業の成果

当日は、県内外から 40 名程の受講者（医師・看護師・認定音楽療法士 等）、10 名の実行委員が参加し、本セミナーを開催することができた。呉先生により「聞こえの仕組み」・「胎児期からの発達と音への反応」・「低出生体重児（新生児・乳児）の音楽療法」・「評価方法」について具体的に、また、画像や動画を通して、分かりやすく学ぶことができた。

アメリカでは 30 年ほどの歴史があるとのことだが、日本においては、まだ認知の低い分野である。概要や理論、また、音楽のエビデンスを数字で見ることができたため、医療関係者にとっても、音楽の効果を知る機会になったことであろう。

実際に NICU や GCU で CD をかけているという病院に勤務する看護師もいた。呉先生によれば、CD からの音楽には、ノイズを消す役目はあるが、それ以上の役目はないとのことだった。音楽を使用するうえで最も大切なのは、児の様子や反応にあわせて、音楽が変化していくことだ。また、児に適した音の大きさ（デシベル）や、高さ（ヘルツ）も受講者に実際に体験していただくことができた。臨床では欠かせない評価方法についても、児に対する評価と、保護者に対する評価について、学ぶことができた。アンケートにもあったが、新しい分野であるため、実践することが難しいこと・医療関係者ではない音楽療法士が NICU に入るというハードルの高さ・低出生体重児に対する音楽療法を実践している病院が日本に 2ヶ所ほどしかないことなど、実現にむけては、数々のハードルがあることを誰もが感じた。現在、音楽療法士は国家資格でもなければ、音楽療法には医療点数もつかない。しかし、音楽が及ぼすことのできる影響は、児にとっても、その保護者にとっても多大である。すぐに NICU・GCU で音楽療法を実践することは難しいが、まず、このセミナーを通して、低出生体重児への音楽療法を学ぶことができたため、今後、日本でも実践する病院が増えていくことを期待したい。

## ■ 成果の広報、公表

セミナーを終え、弊法人の広報紙「さんれんぶ通信」に報告記事を載せ、法人会員・各機関へ送付した。弊法人の Face book ページへの投稿も行った。当日参加していただいた医師 3 名・および実行委員には、受講者のアンケート集計結果もあわせて送付し、報告をした。また、本セミナーを受け、群馬県立小児医療センターへ、低出生体重児に対する音楽療法のさらなる周知を図り、実践へむけ、具体的に検討していく。

名義後援をいただいた、群馬県・NHK 前橋放送局・上毛新聞社・FM GUNMA にも報告書を提出する。

## ■ 今後の展開

まだまだ認知の低い分野であるため、本セミナーを終えた、今がスタートラインである。本セミナーをきっかけに、少しずつでも、低出生体重児への音楽療法が周知されれば大変うれしく思う。身近なところでは、群馬県でも、低出生体重児の音楽療法を実践したく、群馬県立小児医療センターの NICU・GCU での音楽療法実践を目指していく。また、児へはもちろん、自分の子を「小さく産んでしまった」と罪悪感や不安をたくさん抱えているお母さんに音楽が届き、“赤ちゃんと一緒に〇〇ができる”、“赤ちゃんに〇〇ができる”という出産後の母親が当たり前に感じることでできる感情を、NICU・GCU でも感じることでできる環境づくりがおこなえると良い。

そして、音楽療法の認知・普及が広がることを目指し、今後も活動していきたいと考える。